

JACET中国・四国支部 Newsletter

第12号

目次

1. 巻頭言	支部長	松岡 博信	pp.1-2
2. 2013年度秋季支部研究大会報告		岩中 貴裕	pp.2-3
3. 2013年度支部第2回役員会報告	事務局幹事	平本 哲嗣	p. 3
4. 2013年度支部研究会 OPP—第5回イベント報告	OPP代表	岩井 千秋	pp.3-4
5. 2014年度春季支部研究大会発表応募要領	事務局幹事		
6.		平本 哲嗣	pp.4-5
7. 2014年度国際大会について	支部組織委員長	岩井 千秋	pp.5-6
8. 事務局だより	事務局幹事	平本 哲嗣	pp.6-7
9. 編集後記			pp.7-8
10. 【重要】 ニュースレター (NL) 配信についてお願い			p.8

巻頭言

中国・四国支部長 松岡 博信

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

さて、中国・四国支部の会員数はここ数年ほとんど変わらず150名ほどです。毎年、支部役員のご協力を得て研究大会を春と秋の2回精力的に開催してきました。昨年は春季研究大会を就実大学にて、秋季研究大会を香川大学にて開催しました。大会の実行に当たり多大なるご協力をいただいた就実大学の田淵博文先生、ローレンス・

ダンテ先生、そして香川大学の水野康一先生、岩中貴裕先生に、この場を借りて衷心より感謝申し上げます。おかげで、両大会とも例年に比べて発表件数および参加者も相当数増え、内容も大変充実したものでなりました。

今年は、8月28日(木)、29日(金)、30日(土)にかけて、副支部長である岩井千秋先生を大会実行委員長として、広島市立大学においてJACET第53回国際大会

が開催されます。本支部としては、私が実行委員長を務めた 2007 年の全国大会(安田女子大学)から 7 年ぶりの担当となります。海外からも多くの著名な研究者が来広される予定です。すでに実行委員会の活動は始まっておりまして、各方面の先生方からご協力をいただいています。大会の成功を目指して、今後も一致団結して準備を進めて

参る所存でございますので、今後とも中国・四国支部の活動へのご協力を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様にとりまして、本年がより良き年になりますよう祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

(安田女子大学)

2013 年度秋季支部研究大会報告

岩中 貴裕 (香川大学)

平成 25 年度 JACET 中国・四国支部研究会は 10 月 26 日(土)に香川大学幸町キャンパスで開催された。授業実践報告、英語学的知見の英語教育への応用、そして文学批評と多岐にわたるテーマに関する研究発表と活発な意見交換が行われ、内容の濃い充実した研究会となった。

支部長の松岡博信先生(安田女子大学)、大会実行委員長の水野康一先生(香川大学)による挨拶で研究会は始まった。

今回は合計で 12 件という事前の予想を大きく上回る発表申込があり、発表会場を 2 室にしての実施となった。

第 1 室の前半(司会:高垣俊之先生)では「動機づけを高める 3 steps と外国語学習における動機づけの階層モデル」(田中博晃)、「英文音読と黙読に関するアンケートの量的および内容分析」(佐藤あずさ)、「フリーオンラインプログラムを活用したブレンド型授業の実践と課題」(山本五郎)という 3 件の研究発表が行われた。

休憩後の後半(司会:高橋俊章先生)では「Analyzing Accuracy and Complexity in Written Speeches Based on Ellis」(Hiroko Murakami)、「Communicative writing and speaking: some useful tasks」(Daniel McCourt)、「学力の多様化に対応した映画英語 WBT 教材の開発」(角山照彦)という 3 件の研究発表が行われた。

第 2 室の前半(司会:鳥越秀知先生)では『内容』に重点を置いた英語教育の枠組みの構築を目指して「イマージョン・プログラム、CBI、CLIL の比較」(永末順子)、「英語学習者の明示的および暗示的知識について」(藤村美希)、「Teaching Discussion and Presentation Skills: Some Practical Method」(Laurence Dante)という 3 件の研究発表が行われた。

休憩後の後半(司会:三熊祥文先生)では「日本人大学生が生み出す「I can」の誤用とその分類」(西谷工平・小田希望)、「バラック・オバマ大統領の就任演説を読むー文化の読解をめざしてー」(古志湊子)、「コンラッドにおける文化的誤解と葛藤ーエイミー・フォスターを中心にー」(渡辺浩)という 3 件の研究発表が行われた。

研究発表終了後、Ian Willey 先生(香川大学)と Gerardine McCrohan 先生(香川大学)の講演(司会:平本哲嗣先生)を拝聴した。

Ian Willey 先生は「Deconstructing the Native-nonnative Dichotomy: An Interview Study」というテーマで、Gerardine McCrohan 先生は「Changes in Students' Self-reported Use of Communication Strategies」というテーマでの講演であった。講演後はフロアを交えての活発な意見交換がなされ、予定してい

た時間が足りないくらいであった。

鳥越秀知先生（香川高等専門学校）による閉会宣言により、平成 25 年度 JACET 中国・四国秋季支部研究大会は終了した。

大会終了後は、高松駅前の「若大将」という炭火焼鳥専門店において懇親会が開催され、多くの方々の参加をいただいた。大学英語教育が直面する課題、JACET 中国・四国支部の活性化、2014 年度に広島市立大学で開催される第 53 回国際大会など様々

な話題で盛り上がった。和やかな雰囲気での意見交換は、英語教育に携わる我々のプロ意識を高める機会となった。

最後に発表や司会を行って下さった方々、講演をお引き受けいただいた先生方、参加いただいた方々、大会運営をサポートしてくださいました全ての皆さまに感謝を申し上げます。

2013 年度 JACET 中国・四国支部

第 2 回役員会報告

10 月 26 日（土）に開催された支部役員会にて、2014 年度スケジュール（案）について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

1) 支部主催 研究大会 ・春季研究大会

日時：2014 年 6 月 7 日（土）
13:00～ 研究発表（予定）
18:00～ 懇親会（予定）

場所：広島市立大学

大会テーマ：未定

（なお、8 月 28 日（木）～8 月 30 日（土）

に広島市立大学で国際大会が開催されます。これを受け、来年度は秋季支部研究大会を開催いたしません。）

2) 支部総会

日程：2014 年 6 月 7 日（土）
場所：広島市立大学

3) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：2014 年 12 月中旬（調整中）
場所：調整中

2014 年度支部研究会 OPP 報告

OPP 代表 岩井千秋（広島市立大学）

JACET 四国・支部の Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会による第 5 回年次イベントを 12 月 15 日（日）に開催しました。今年度は、OPP 研究会メンバーで広島国際大学の三宅美鈴先生、山中英理子先生、それに JACET の支部役員でもある田中博晃先生にご尽力いただき、広島国際大学呉キャンパスの

メディア・ホールを会場として使わせていただきました。この教室は同大学の中心部にあり、高層ビルの最上階（9 階）に位置し、500 名は優に収容できる大教室で、ステージとあらゆるメディアに対応する視聴覚施設が完備され、OPP の会場として「至れり尽くせり」の環境でした。また当日は、国際交流センター

長の浅沼潤教授に学長代理として会場校を代表してご挨拶いただき、さらに同センターの加藤和輝室長などにもご臨席いただくなど、OPP に花を添えてくださいました。お世話になりました広島国際大学の関係者の皆様がこの場を借りて心からお礼申し上げます。

さて、今回の OPP ですが、前回までの土曜日と違い、日曜日に開催しました。事前に OPP 常連の先生方にお尋ねしたところ、都合がつかないとの回答が多く、日曜日開催にしたというわけです。週日の疲れを癒したい日曜日にどのくらいのエントリーが見込めるか心配しましたが、蓋を開けてみると昨年同様 8 大学の参加、嬉しい悲鳴をあげました（学生パフォーマンス 64 名、指導教員 10 名）。支部長・松岡先生をはじめ会員の皆様、さらに非会員の皆様にも多数ご来場いただき、過去 4 回に勝るとも劣らない、盛大なイベントとなりました。以下に、今年のプログラムをご紹介します（発表順）。

- ・開会式
- ・会場校ご挨拶
広島国際大学・国際交流センター長 浅沼潤先生
会場校 代表 三宅美鈴先生

①広島市立大学（岩井千秋）

“Barefoot Gen – A story of love, despair, and hope”

②東京工芸大学（橘野実子先生：ビデオ参加）

Speeches “Our art works”

③広島工業大学（三熊祥文先生）

1. Group performance, “HIT-chants 2013: TOEIC-chants”
2. Original speech “When? Right now!”

④広島国際大学（山中英理子先生・三宅美鈴先生）

1. Introduction of HIU by video: One way or another
2. Demonstration of how to give CPR and how to use AED
3. A Drama in English “An Inch Boy”

⑤松山東雲女子大学（佐伯三麻子先生）

“Memories from guide interpreting in Kyoto”

⑥県立広島大学（吉本和弘先生・船津晶代先生）

A drama in English: Two scenes from “A Midsummer Night’s Dream” by W. Shakespeare

⑦海上保安大学校（二五義博先生）

“Only spirit! Japan Coast Guard Academy: “If” at sea is 118”

⑧安田女子大学（平本哲嗣先生）

Play: “Dubbing *Charlie Brown’s Christmas Tales* in English”

・閉会式、懇親会

参加者の顔ぶれですが、過去 4 回の OPP にご出場いただいた元安田女子短期大学の橘野先生は東京から駆けつけ、ビデオ参加してくださいました。その橘野先生の元所属先からは平本哲嗣先生に新たにエントリーいただき、安田女子大学のよき伝統を引き継いでいただきました。

第 5 回イベントの様子は、これまで同様、報告書と併せ、OPP 専用サイトで公開予定ですが、準備ができるまで今しばらくお待ちいただければと思っています。

皆様のお陰をもちまして、こうして第 5 回 OPP イベントを滞りなく挙行することができました。来年度は私たちの支部が年次国際大会の当番で多忙ですが、何とでも第 6 回 OPP の実施に漕ぎ着けたく思っています。続けて皆様のご理解、ご協力、ご参加をお願いする次第です。

<OPP ウェブサイト情報>

<http://chiaki.intl.hiroshima-cu.ac.jp/Bulletin/07OPP/>

※動画等についてはパスワードが必要です。ご希望の方は代表者までお問い合わせください。

2014 年度春季研究大会発表応募要領

事務局幹事 平本 哲嗣

10 月 26 日（土）に開催された支部役員会にて、2014 年度春季研究大会について話し合

いが行われましたので、お知らせいたします。

支部研究大会

日時：2014年6月7日（土）

場所：広島市立大学

A) 応募情報（英語での併記もお願い致します）

a. 発表題目 (Title)：日本語と英語

b. 種別 (Style)：自由研究発表，実践報告，事例研究など

c. 氏名 (Name)：

d. 研究領域 (Research Area)：

e. 概要 (Abstract)：目的，背景，仮説，方法，結論，引用文献など日本語の場合は 600 字以内，英語の場合は 250 words 以内とする。

f. 所属 (Affiliation)：

g. 使用機器 (Equipment needed)：

h. 連絡先 (Contact Address)：メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2014年4月25日(金)～5月25日(日)
午後11時59分まで

■申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください（発表，および懇親会への参加申込ができます）。

<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML，および支部 HP でお知らせします。（支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください）。

■問い合わせ先

事務局幹事 平本哲嗣

hiramoto@yasuda-u.ac.jp

～2014 年度国際大会について～

支部組織委員長 岩井 千秋

支部会員の皆様には，本部から送付された「JACET 第 53 回国際大会のご案内」を受け取られ，この大会の当番が私たち中国・四国支部に回ってきたことにお気づきのことでしょう。前回の開催が 2006 年度（安田女子大学）でしたから，8 年を経てもう全国の支部を一周したことになります。

さてその国際大会ですが，広島市立大学を会場に，8 月 28 日（木）～30 日（土）の 3 日間に亘って開催されます。大会テーマや基調講演者の詳細は上述の案内文をご参照いただくことにして，ここでは現在までの準備状況を皆様にお知らせします。

JACET の組織は本部と支部の二重構造になっています。そのため大会全体の運営については本部の大会委員会と事務局の指示を仰ぎながら進めています。担当支部の

主な役割は，テーマや招待講演者の候補者選び，支部企画の実施，招待客や本部関係者の宿泊先の確保，後援名義の取得，そして何より学会に際してのタイムスケジュールの作成，発表教室の割り当て，受付，招待講演者のアテンド，懇親会の準備などで，数え上げればきりがありません。支部大会とは規模も参加者数も桁違いで，延べ 800～1,000 人程度の参加者が予測されています。大会まではまだ半年以上ありますが，日程には十分余裕をもって準備を進める必要があります。テーマの決定やホテルの予約などはすでに終わっていますが，上述の後援名義以降の主業務はこれから準備の本番を迎えます。担当業務の割り当てについては，支部役員の方を中心，すでに昨年 10 月に開催された支部研究大会時

の役員会で決めさせていただきました。しかし、大会当日は受付業務や発表会場の世話、懇親会の準備など猫の手も借りたい状態になることは必然です。支部会員の皆様の中でご協力いただける方はどうぞ支部組織委員長の岩井あて、メールでお伝えいただければ幸いです（アドレスは以下のとおり）。

ところで今年6月の支部研究大会ですが、広島市立大学を会場に開催されます。これは8月の国際大会の予行演習を念頭に入れたもので、国際大会でご協力いただく先生方に会場に慣れていただく意味もあります。支部会員の皆様にも多数ご参加の上、会場の様子をご覧いただければ幸いです。

(iwai@intl.hiroshima-cu.ac.jp)

～事務局だより～

ついに新しい年を迎えました。今年是中国・四国支部にとって国際大会という大きな行事を控えております。平和都市ヒロシマを舞台に、おいでいただく方々全てに喜んでいただけるよう役員一同「おもてなし」の精神で準備に取り組んでいます。支部の活動を含め、今後の行事情報は支部のウェブサイトに掲載してまいりますので、随時ご確認いただければと思います。

さて、昨年12月に文部科学省より「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が発表されました。その内容は主に初等、中等教育に関するものですが、当然のことながら、高等教育機関における英語教育関係者もこの流れに無関心ではいけません。この計画では高等学校に続き、中学校でも授業を英語で行うこととなっています。ひるがえって大学の英語教育ではこの点いかがでしょうか？授業で使っている日本語を単に英語に置き換えるだけでは、教室が「コミュニケーションの場」になるとは言えないかもしれません。「授業を英語で」となると、教員側は「自分が全て英語で仕切らなくては」と考えがちですが、主役はあくまでも学生であり、学生が英語を使う機会を増やすというのがこの流れの趣旨であると理解しています。この計画が打ち出している方向性は、高等教育機関の英語教育にその指導理念や指導法に見直しを迫る機会となるかもしれません。

中国・四国支部では研究大会・研究会等のご案内を支部HPをはじめ、葉書やメールに

てお知らせしております。異動された会員の方は、所属・地位、メールアドレス、住所などを、事務局本部 jacet@zb3.so-net.ne.jp までご連絡ください。

★新入会員紹介★

2013年度の新入会員をご紹介します。

(2013年8月から2014年1月まで)

藤村美希

金井典子

McCourt, Daniel

荻野 勝

永末順子

三浦省五

西谷工平

小田希望

渡辺 浩

Sharpe, Michael

McCrohan, Gerardine

竹野純一郎

(敬称略)

どうぞよろしく願いいたします。

★2014年度支部人事(案)★

2014年度の本支部における支部人事および本部委員人事(案)をお知らせいたします。支部活動発展のために尽力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

【支部役員】

支部長 松岡博信(安田女子大学)

副支部長 岩井千秋(広島市立大学)

支部幹事(*は事務局幹事)
*平本哲嗣(安田女子大学)
高橋俊章(山口大学)
三宅美鈴(広島国際大学)

支部会計担当者
山川健一(安田女子大学)

支部研究企画委員
筏津成一(鳥取大学)
池野 修(愛媛大学)
岩中貴裕(香川大学)
上西幸治(広島大学)
角山照彦(広島国際大学)
小山尚史(岡山大学)
高垣俊之(尾道市立大学)
高橋俊章(山口大学)
瀧由紀子(松山大学)
田中博晃(広島国際大学)
田辺尚子(安田女子大学)
田淵博文(就実大学)
寺嶋健史(松山大学)
鳥越秀知(香川高等専門学校)
西田 正(福山大学)
平本哲嗣(安田女子大学)
堀部秀雄(広島工業大学)
三熊祥文(広島工業大学)
三宅美鈴(広島国際大学)
山川健一(安田女子大学)
ローレンス・ダンテ(就実大学)
【本部委員】

【編集後記】

昨年は2020年東京オリンピック招致活動成功のニュースで久々に日本中が歓喜に湧いた。2013年9月7日の国際オリンピック委員会総会、最終プレゼンテーションでのことである。

表現下手だとよく言われる日本人が、大きなジェスチャーで、英語だけでなくフランス語でもプレゼンを行い、また年齢や社会的地位を鑑みた伝統的な順序ではなく、年齢職業を問わず全体の構成から組み立てられたプレゼン構成など、学ぶべきものが多くあった。

総務委員会(支部事務局幹事)
平本哲嗣(安田女子大学)
財務委員会(支部会計担当者)
山川健一(安田女子大学)
国際大会組織委員会本部
田中博晃(広島国際大学)
『JACET 通信』委員会
鳥越秀知(香川高等専門学校)
学術出版委員会紀要担当
松岡博信(安田女子大学)
学術出版委員会 Selected Papers 担当
堀部秀雄(広島工業大学)
セミナー事業委員会サマーセミナー担当
田淵博文(就実大学)
研究促進委員会
岩井千秋(広島市立大学)
国際交流委員会
堀部秀雄(広島工業大学)
大学英語教育学会賞運営委員会
筏津成一(鳥取大学)
国際大会組織委員会 支部
岩井千秋(広島市立大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★
『支部紀要』第12号
2014年3月31日刊行(予定)
『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』
2014年7月30日(第13号)発行(予定)
2015年1月31日(第14号)発行(予定)



ひとりの英語教師としてそれらの学びの中から、個人的ではあるが、3つご紹介したい。

1. **流暢さは必ずしも必要ではない。** 流暢な英語に越したことはないであろうが、聞き取りやすい明瞭な英語で気持ちを込めてゆっくりと話すのが良い。聞き手すべてが英語を母語としている人ではないからだ。

2. **ジェスチャーが大事。** 大きなジェスチャーを付けることによってスピーチに抑揚がつき、生き生きとしたパワーを与えてくれる。謙虚さを美德とする日本人にはとくに難しい

ので要努力。

3. **“Practice makes perfect.”** 日本チームのプレゼンターは英語を専門とした人は誰ひとりとしていない。あれだけのプレゼンを行うには相当な練習を重ねたに違いない。どのプレゼンターも、まるで役者のように演じきっていた。また努力すれば必ず報われるということを証明してくれた。

これらの学びをスピーチのクラスでぜひ活かしたいと思った。

(MM)

【重要】

JACET（大学英語教育学会）中国・四国支部ニューズレターの配信について

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信することといたしました。支部会員の皆様におかれましては、以下の手順に従ってアドレスの登録作業を行っていただきますようお願いいたします。またこれに合わせて、支部メーリングリストへの参加確認も行います。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。
 2. 「メールアドレスの登録について」のここからをクリックして入力する。
 3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。
 - ・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？
新規登録を希望する メールアドレスの変更を希望する
- (※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がございましたら、事務局幹事の平本(hiramoto@yasuda-u.ac.jp)までお問い合わせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第12号

2014年1月31日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 松岡 博信)

編集 : JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴

発行所 : 〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部医療技術学科
三宅 美鈴

連絡先 : Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp